

回腸末端より20cm 口側の腸間膜に硬い白色調の腫瘍があり病理診断は硬化性腸間膜炎であった。硬化性腸間膜炎は1924年、Jula は“腸ループの癭痕変形を来す腸間膜所見を呈するもの”と定義し線維化優位型と脂肪肉芽腫優位形成型に分けたが、病因は基本的に非特異的損傷に対する腸間膜反応の様々な過程による。1975年、Reske & Namiki は若年齢に多い線維芽細胞増生主体の Group A と高年齢に多い脂肪肉芽腫形成を伴う脂肪織炎主体の Group B に分けており当症例は Group A に属すると思われた。

16. 定期検診における大腸疾患診断の現況

(中山メディカルクラブ) 長谷川利弘

1976年4月より1993年12月までの期間に中山メディカルクラブで診断された大腸疾患は、開設以来、延べ会員数2,468名に対し、大腸憩室68例、大腸ポリープ85例、大腸癌26例であった。これらの症例の診断により得られたポイントまとめると、①便潜血反応とくに免疫学的便ヘモグロビン検出法は、定期検診で大腸癌や大腸ポリープのひろい上げ診断に極めて有用である。②便潜血反応陽性で無症状でも、任意の時期に注腸 X 線検査を行うべきである。できれば2年に1度程度が望ましい。③便潜血反応陽性例に対する total colonoscopy は必要不可欠である。④無症状例に対し定期検診において、任意に colonoscopy を行うか否かは今後の課題であろう。

17. びまん浸潤型進展様式を示した S 状結腸癌の 1 例

(湯河原胃腸病院, *東京女子医大消化器外科)

石塚直樹・吉田 充・福田俊夫・
依田勇二・遠藤 健・吉田 裕・
羽鳥 隆・吉田勝俊*・山田明義*

47歳男性。主訴は下痢、腹痛で、注腸検査にて S 状結腸狭窄像を認めた。大腸内視鏡では発赤、浮腫を伴う全周性狭窄が見られ、生検で腺癌を認めた。Virchow 転移・肝転移を認めたが、腫瘍切除目的にて S 状結腸切除を施行した。進行程度は P2, H2, S2, N4 (+), M(-), Stage V であった。摘出標本肉眼像ではわずかな潰瘍形成を認めたが、病変全体の壁の著明な肥厚と高度狭窄像が特徴的であった。組織型は中・低分化型腺癌で、高度リンパ管浸潤 (ly3) が特徴的であり、びまん浸潤型大腸癌と診断した。本疾患は大腸癌のなかでも特に予後不良な癌であるが、長期生存例もあり、早期発見に努めることが肝要と思われた。

18. IIa 様進行大腸癌の 1 切除例

(社会保険山梨病院)

安原清司・草野 佐・小沢俊総・
矢川彰治・植竹正樹・野方 尚・
河野 寛・小俣好作

現在、Borrmann 2型大腸癌の発生については正常粘膜から直接癌が発生するという de novo 説が有力となっている。今回我々は粘膜面に IIa の病変があり、その大きさが直径8mm と微小でありながら既に垂直浸潤が漿膜にまで達した de novo 型大腸癌の 1 切除例を経験した。その浸潤形式は神経周囲および静脈沿いに漿膜下層まで浸潤した癌腫が漿膜下組織において増殖し、さらに周囲組織に浸潤するというものであった。

大きさが10mm 未満の大腸癌の報告は早期大腸癌に限られており、粘膜面の大きさが10mm 未満でありながら浸潤度が漿膜まで達している症例は我々が検索し得た限りでは初めてであり、浸潤形式も興味深いものであったので若干の考察を加え報告する。

19. 診断に苦慮した虚血性大腸炎の 2 例

(胃腸科くず葉台病院)

手塚 徹・高橋元治・小野邦良

当院は肛門科も標榜している関係で、血便を主訴に来院する患者は非常に多く、そのほぼ全例にコロノスコピーを施行しているが、90%以上が肛門疾患で、残り数%の中に、腸の炎症性疾患と腫瘍が含まれている。腸の炎症もほとんどが、限局性の粘膜の発赤、腫脹、びらん等、軽微な炎症所見を呈するのみで、臨床症状も一過性で経過は良好であるが、中には今回呈示するような広範な縦走潰瘍、アフタ性びらん、炎症性ポリープ様隆起等の所見の認められる重症例があり、鑑別診断に苦慮した 2 例を経験した。

20. 化学療法後、横隔膜を穿破し気管支大腸瘻を形成した悪性リンパ腫

(社会保険山梨病院内科)

小山祐康・飯田龍一

症例は61歳の男性。心窩部痛を主訴に近医受診し、多発性の胸部円形陰影を認めたため、転移性肺腫瘍の疑いで紹介入院した。入院時検査で、LDH 893 IU/l (3型優性)、CA125 135.4U/ml と上昇していた。腹部 CT で、脾臓上部から横隔膜、胸腹壁、胃、大腸に及ぶ巨大な腫瘍を認めた。胃内視鏡で、胃体下部全壁に周堤を伴う潰瘍性病変がみられ、生検にて悪性リンパ腫と診断された。ProMACE 療法を開始し、LDH は正常化、潰瘍も著明に縮小したが、肺炎を合併し、3クール途中で化学療法は中断された。喀痰培養より大腸菌